



2026 SUPER GT RACE REPORT

FUJI SPEEDWAY

Rd.4

8.1[sat] - 2[sun]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] sat 晴れ sun 晴れ

[spectators] 56,400人 (sat 22,300人 sun 34,100人)

Rd.1	OKAYAMA International Circuit	APR 11 - 12
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	MAY 3 - 4
Rd.3	Sepang International Circuit	JUN 20 - 21 *開催延期
Rd.4	FUJI SPEEDWAY	AUG 1 - 2
Rd.5	SUZUKA CIRCUIT	AUG 22 - 23
Rd.6	Sportsland SUGO	SEP 19 - 20
Rd.7	AUTOPOLIS	OCT 17 - 18
Rd.8	MOBILITY RESORT MOTEGI	NOV 7 - 8

80kgものサクセスウェイトをはねのけ、
決勝では7ポジションアップの快進撃！
真夏の富士ラウンドで、4位入賞を果たす。



2026 AUTOBACS SUPER GT Round4「FUJI GT 300km RACE」が、8月1日・2日に富士スピードウェイで行われた。開幕2連勝を果たしている #36 au TOM'S GR Supra (坪井翔／山下健太) は、GT500 クラスのなかで最も重い、80kgのサクセスウェイトを背負いながら、それをほとんど感じさせない善戦を披露した。予選11番手から着々と追いつけ、4位入賞を果たし、ライバルとのポイント差をさらに広げた。



36		TGR TEAM au TOM'S		RESULTS	
 坪井 翔 SHO TSUBOI	 山下 健太 KENTA YAMASHITA	Round 4		予選 11 位	決勝 4 位
		QUALIFYING 1 QUALIFYING 2 RACE / Fastest Lap	TSUBOI P11/1'28.355 - TSUBOI 1'30.785 YAMASHITA 1'30.818	Driver Standings 1 位 Team Standings 1 位	

QUALIFYING

天候:晴れ | 気温:32℃ | 路面温度:44℃

6月に予定されていた Round3 マレーシア大会の延期に伴い、前戦から約3ヶ月のインターバルを経て、今季の3戦目として開催された。4年連続のチャンピオンを狙う36号車は、開幕2連勝という好スタートを切ったが、その分、成績に応じて科されるサクセスウェイトも増加。今大会では80kgのサクセスウェイトを背負いレースに臨むこととなった。さらに同クラスで唯一、燃料流量リストリクター制限の対象となり、特にストレート区間では不利になる状況だった。

その厳しい状況下で、予選Q1を担当した坪井が、渾身の走りを披露。コーナー区間でタイムを稼ぎ、燃料リストリクター制限を受けていないライバルたちと遜色のない1分28秒355を記録した。Q2進出圏内にはとどかなかったものの、サクセスウェイトのハンデを感じさせない走りで11位を獲得。決勝でのポジションアップを目指していく。



RACE

天候:晴れ時々雨 | 気温:31℃ | 路面温度:36℃

66周で争われる決勝レースは、直前に降った雨の影響により、急ぎょセーフティカー先導で開始された。5周目にセーフティカーがピットに戻り、全車が加速をはじめたが、メインストレートでGT500クラスの複数台が絡むアクシデントが発生。そのうちの1台が大破したため、レースは赤旗中断となった。約35分の中断のちにレースが再開されると、スタートを担当した山下がレースペースの良さを活かして追い上げを開始。14周目で8番手に浮上すると、その後も好ペースで周回。28周目にピットインし、坪井に交代した。サクセスウェイト80kgを背負う36号車は、給油リストリクターの制限も受け、通常よりも給油に時間がかかる状況にあったが、燃費走行と、メカニックの迅速な作業により、タイムロスをもっと抑えて、再びコースへ。終盤には坪井が2台を追い抜き、11番手から驚異の7ポジションアップとなる4位入賞を果たした。



TOM'S

Driver
坪井 翔

今回のサクセスウェイトを考えると、8位か9位くらいだと思っていたので、4位というのはこれ以上ない結果ですし、僕たちとしては実質的に優勝と言っても良いくらい、完璧な内容だったと思います。振り返ると、予選の一発や、決勝でのバトルは厳しかったですが、タイヤが苦しくなってくるスティントの後半でチャンスがあると予想していました。コーナー区間の速さを活かして、順位を上げていきました。

Driver
山下 健太

今日の結果は、優勝に匹敵するくらいのものだと思います。僕のスティントで3台くらい追い抜くことができました。当初からピットのタイミングを遅らせる作戦だったので、周りのライバルとタイミングをずらすことでペースを上げることができました。後半の坪井選手も素晴らしい追い上げだったと思います。燃料リストラクターの制限がある分、バトルは簡単ではなかったですが、それ以上にクルマのバランスが良かったです。

Team Director
伊藤 大輔

素晴らしいレース内容だったと思います。予選に関してもポジションは11位でしたが、内容的には良いタイムでしたし、決勝も自信を持って挑みました。山下選手も序盤から良いペースを築いてくれて、ポジションを少しずつ上げて帰ってきてくれました。給油リストラクター制限によるタイムロスの懸念はありましたが、みんながミスなく仕事をしてくれて、ドライバーも燃費走行を頑張ってくれました。終盤の坪井選手の追い上げも素晴らしかったです。

Team Principal
館 信秀

今年も36号車は見事な走りを見せてくれますが、今回の活躍も本当に素晴らしいと思います。我々の底力を存分に発揮できたレースだったと感じています。ドライバーの2人はもちろんですが、チーム全員が素晴らしい仕事してくれました。これでサクセスウェイトがさらに増えて、次戦はもっと厳しい戦いになると思いますが、引き続き一つでも上の順位を目指して全力を尽くします。

次戦もたくさんの応援を、よろしくお願いいたします。

au

KDDI

アワイエ

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-DC TGR Driver Challenge Program

TGR-D

BRIDGESTONE

FXGT

spark

DRY ZERO

Entowa's NUSH

Y&C Group

OXREX

Vバンテリン

広島トヨペット

LHG

INTERIOR GUARD

pet's

Aidma Holdings

MASEKI GEINOSTA

uchio

Valmont

U's Factory

WILDERA UNIVERSITY

EDIFICE CASIO

JAPANTRAK SHOW

TAMIYA

Achilles

車道テック

bryza

HR

PORTS.CO.JP

BRIDE

FUKADEN

S&D TAMA GROUP

ENKEI

HRX

Mizuno

both.

ThreeBond

Mitsubishi

KRS